



心に残る一冊

神戸女子大学 教授 伊藤 美奈子

これまでの人生において、心に残る本といえば、いろいろな本が思い浮かびますが、今回は、自分の生き方に影響を与えた一冊をご紹介しますと思います。

それは、河合隼雄先生が書かれた『新しい教育と文化の探求－カウンセラーの提言』（創元社）です。この本は、私が高校教師として勤務していた私立女子高校の職員図書館に置いてありました。当時、まだ経験も浅い未熟な教師として、生徒理解や不登校生徒への対応に悩んでいたのですが、河合先生のご著書には「目から鱗が落ちる」思いにさせられる内容が多々あり、教師としての自分自身を振り返る機会になりました。

二十代の当時、若気の至りなのか、怖いもの知らずであるのか、「この気持ちを河合先生にお伝えしたい！」と思い、恐れ多くもお手紙を書いたのです。河合先生には、当時も＜追っかけ＞が多く、全国からのファンレターもたくさん届くため、手紙など読んでもらえないよと、助手の先生から後で聞いたのですが、なぜか私の手紙を読んでもくださった河合先生が、直接、私の自宅に電話をかけてくださったのです（自分の電話番号を書いたのも、厚かましいことなのですが・・・）。

その電話を受けた母から「京大のカワイさんという人から電話があったよ」と言われても、河合先生とは結びつかず、折り返し電話を掛けたところ、河合先生ご本人が電話に出られて、ビックリ仰天した次第です。しかも、河合先生が会ってくださるというので、最高に緊張しながら京大まで出向きましたところ、「もうすぐ大学の臨床心理学専攻に、社会人向けのコースができるから来ませんか？（正しい文言はうろ覚えですが）」とお誘いだったのです。

さすがに国文学出身で、心理学の卒論も書いたことがなかったため、すぐには挑戦できず（かつ教師を辞める勇気もなかったため）、最初は、高校教師を続けながら、職場から一番近い大阪教育大の大学院で青年心理学を学び、その後に、河合先生に勧めていただいた教育臨床を学ぶコース（博士前期課程）に進むと同時に、高校教師を辞めることになりました。

もちろん、その過程においては、並々ならぬ苦労がありました。その時々にくれてくれたありがたい出会いの数々があったからこそ、今の私があるのだと思います。それでもこのご著書は、私にとりましては、忘れられない一冊だといえます。